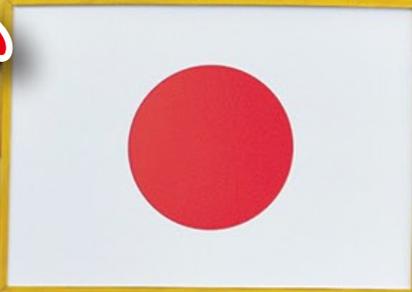


議会だより もろっか

平成30年8月



平成30年 第158号 編集 議会広報編集特別委員会
発行 諸塚村議会



もくじ

平成30年度一般会計補正予算	2
一般質問	3~4
第8回諸塚村子ども議会	5
諸塚村議会見学の感想	6
所管事務調査報告	7
議会活動報告	8

平成30年第2回諸塚村議会定例会(6月15日開会) 平成30年度一般会計補正予算 8千万円の補正額 総額30億8千万円

主な補正事項

【歳入】	
・村有林材売払い収入	7,519千円
・県単土地改良補助金	3,325千円
・過年度分耕地災害復旧事業費補助金	4,473千円
・一般寄附金	1,000千円
・森林郷創生基金繰入金	65,000千円
【歳出】	
〔総務〕	
・積水車両購入(公用車)	12,000千円
・普通財産取得費(村賃借地及び周辺山林)	12,000千円
〔企画〕	
・しいたけの館施設管理補助金(観光協会職員人件費等)	14,680千円
〔産業〕	
・菌床栽培施設運営補助金(職員2名増)	7,540千円
・村基本財産造成事業	4,481千円
〔建設〕	
・県単土地改良事業	10,600千円
・土木災害復旧事業(村単独:猿渡・奥畑線)	5,000千円
〔教育〕	
・教職員住宅改修関連委託料	2,000千円
・村民プール塗装工事(委託料・工事請負費)	1,796千円



九州中央自動車道建設促進沿線議会協議会 総会・決起大会



入郷地域開発期成同盟会 定期総会



林務駐在所長による研修会



土木駐在所長による研修会

一般質問 今回二名の議員が質問をしました。

①諸塚村の棚田を守る対策について



黒木 重人 議員

問 黒木議員 遠い祖先が集落の共同作業により、人力で山を拓き、水路を作り、長い年月をかけて残した貴重な棚田を高齢化を理由に、「今年には田をよう作らんと」言う世帯が増加しています。まさに農家にとっては断腸の思いでの発言ではないでしょうか。しかしそんな農家に代理作付をする、個人やウッドピア諸塚、家代農業法人等がありますが、水田が公道より遠く、幅員が狭い急勾配な棚田での農機の入入りには身の危険が伴い、農機もろとも転落する

事故や、横転、脱輪等が頻繁に起きていますと聞きま

す。

世界農業遺産の村として認められた今日、その遺産を守れない農家が増加しているのも現実です。

山腹に拓いた畑にカライモや麦、陸稲まで作っていた時代から半世紀で田畑が消えています。世界農業遺産認定の村としてどのような対策を考えているのか伺います。

を推進しています。今後とも農作業上の安全確保や生産性の向上を図ります。

なお、農地改良の際には農地法や中山間地域等直接支払い交付金などの制約もクリアしながら、これまで先人が開墾し維持してきた農地が大切に使われ、残されるものでありたいと考えています。

答 西川村長 人口の減少、高齢化などに比例してか、村内の田畑の耕作面積が加速的に減少しておりますことを非常に危惧しているところで

村としましては、農業省力化事業として農作業道開設改良、農用地造成、田畑の一面化などの単独事業を行い、農作業の省力化事業



西川 村長

②消防用車両(緊急車両)の管理について

問 黒木議員 3月に南川地区で起こった消防車両の転落事故に対して、衷心よりお見舞いと、ねぎらいの言葉を送りたいと思います。

さて、今回の事故は排気ブレーキの不具合による、制動不能による事故だと聞いています。車両の不具合が操作のミスか、同じ事故を繰り返さないためにも今一度、再確認をする必要があると思います。

また、事故の2日前から連続して火災のために出勤してはいますが、ブレーキ関係に異常が起きたとの報告は受けておりません。事故の原因については残念ながら特定することはできませんし、また警察からも指摘は受けていません。

公用車の管理をさらに徹底するとともに消防車両等の特殊車両についても普通車輻同様にドライブレコーダーを設置して、とにかく安全確保に努めていきます。

答 西川村長 当該車両は小型動力ポンプ付水槽車として、平成7年度水力発電施設周辺地域貢献事業により平成8

年2月に購入しました。月に1度は点検を本部署で行い、2月19日から宮崎市の陸運事務所での車検場で車検を受けましたが、異常はなく、排気ブレーキ関係についても特に空気漏れなどなく、車検に合格しています。

成7年度水力発電施設周辺地域貢献事業により平成8

平成30年度 第8回「諸塚村子ども議会」が開催されました!

子ども議会開催の目的

- 子どもたちが日常生活の中で気付いた学校や地域の問題について、昨年度に引き続き「小さな実現可能な子どものための子ども議会へ!」の考えにより、子どもたち(学校)が村づくりの鍵になる取組の視点から、発展的な取組にしていくことも大事なことです。元気な村づくりに子どもたちの力は欠かせないものであり、子どもたちが主体的に関わることでできる取組を通して、子どもたち自身が喜びを感じることが出来る一連の活動にしていく。
- 将来の諸塚の「村づくり」について、村をよくするための思いや願いを発表し、子どもの豊かな発想を、これからの村づくりの長期構想に生かしていく。
- 子ども議会の企画運営や村議会の見学・傍聴等を通して、議会制度や民主的な政治について理解する。

平成30年度 第8回「諸塚村子ども議会」議事日程

平成30年7月26日(木)午前9時 開議

- 1. 開 会
- 2. 議事日程

司会進行 諸塚中学校【3年 甲斐 萌々華】

日程第1 一般提案(7名)

No.	学校名	学年	提案者名	一般提案題名
1	諸塚中	2年	堀吉 夢奈	「諸塚PR作戦」
2	諸塚小	6年	若本 康汰	「諸塚の木材加工について」
3		6年	堀吉斗希也	「新しい木、育て方について」
4	荒谷小	6年	西田慎之介	「大好きな諸塚を全国に発信するために」
5	七ツ山小	6年	藤本 昊	「諸塚の道路」
6		6年	原田 楓子	「企業誘致とショッピングモールの建設」
7	諸塚中	3年	堀 愛佳	「諸塚愛ディア」

日程第2 意見発表(3名)

No.	学校名	学年	発表者名	意見発表題名
1	諸塚小	6年	川崎 芹華	「豊かで、仕事があり、もう一度諸塚にきたいと思われる村」
2	七ツ山小	6年	甲斐 花和	「つながりと努力」
3	諸塚中	3年	椎葉さやか	「諸塚のこれからを考えて」

- 3. 閉 会

①村有住宅の管理体制について



田原 尚美 議員

問 田原議員
ここ数年、村有住宅に入居されている方々から雨漏り、排水管の詰まりなどによる室内の水浸しやカビ対策、また入居するに当たって清掃の不備など苦情の声が寄せられています。役場に相談したけど対応が遅いとの意見や、苦情を言いにいくとの声もあります。

答 西川村長
村有住宅は現在128戸を管理しており、入居率

については6月1日現在で124戸に入居があり、入居率は97%となっています。建設後44年ないし36年を経過している住宅もあり、老朽化している住宅があるのも事実です。経年劣化の補修につきましては、引き継ぎ等がうまく行われず対応が遅くなった事案があったことも確認したところであります。退居後の補修を行ったものもあり、その点については今後このようなことがないよう業者等含めて指導したところであります。今後は老朽化する住宅がふえていくことから、空き住宅が出た場合にはある程度の規模のリフォームを行うことも検討していきたいと考えています。

問 田原議員
教職員のみならず、

議会傍聴してみませんか?
6月15日(金)議会には17人の方に傍聴いただきました。
次回の定例会は9月12日(水)開会予定です。
お気軽に議会事務局にお尋ねください。
お問い合わせ: 議会事務局
☎ 65-1130(直通)

答 黒木建設課長
引き継ぎ等がうまくいっておらずにそういう案件があったことは確認しています。今後そのようなことがないように注意をしたいと思っています。

一般住民の方も建設課の方に苦情を出されたそうですが、なかなか見に来ていただけに数年経つても一度、確認に行ったがそういう記録はないと言われたそうです。そこ辺りの取り扱いをきちんとしていただいで、一つひとつ丁寧に対応していただきたい。



入郷地域開発期成同盟会 要望活動



森林・林業・木材産業講演会



産業建設常任委員会政務調査

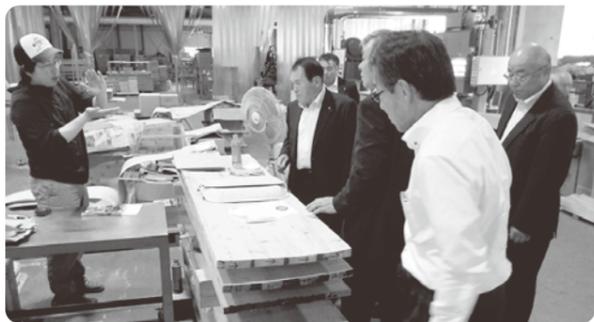
今回の所管事務調査は、高知県の山間部に57haの面積でユズを生産し、年間35億円を売り上げている村があるという情報が入り、議会ですべて調査をしたいということから実行となった。

高知県馬路村は徳島県境に接し、周囲は標高1,000m級の山で森林率96%（内国有林75%）で人口900人、世帯数430戸、中央に集落のまとまった村で、元々は林業で栄えた村であり、管林署が二つあったが平成11年に廃止となっている。山並みは諸塚より急峻で、男性は林業、女性はユズの加工場で働き、専業主婦が多い。昭和40年ころ

からユズの生産が始まり50年代に加工品の製造を開始。当時馬路村農協の課長で現在の組合長が京阪神へトップセールスを行い、年々2億、4億と売り上げが伸びてきた。現在の栽培面積は、56・6ha、生産者192人、馬路村農協が加工、販売を行い、売り上げが最高35億円であったが、現在類似品も出始め30億円を切っている。商品はユズ1個からジュース、化粧品、石鹸等、50種類以上の商品を開発し、最近ではユズ種子油から健康サプリメントを新たに販売している。販売面では、高知市の民間デザインナーに依頼し、田舎を前面に出したパンフレットを作成し都会へ発信、また顧客管理用のパソコンを早くから導入し、現在30万人にダイレクトメールを発

送、組合長自ら商談に出向き、その熱意が生産者をけん引した。生産者は11月に入ると家族総出でユズの採取、ほとんどが兼業農家でユズの収益は、一戸あたり百万円程度で臨時ボーナスとなっている。農協のユズ加工場では、年間60人の雇用を確保しており、村外からも通勤、昼間の人口は1・3倍になるも夜になると閑散としている。

今回、馬路村のユズの生産、加工に重点を置き調査を行ったが、当初ユズの実を搾った果汁のみの販売から商品開発を行い、都会へ売り込みをかけ、販売額を増やして最終的には加工場で数十人も雇用を図り、村の活性化へ大きく貢献している。いかに、山村の働く場作りが必要か、またそれが椎茸の加工による商品開発によってできないものか、村政に一考を要する調査となった。



5月14日(月)から16日(水)にかけて、所管事務調査を行いました。その概要を報告いたします。

所管事務調査報告
総務産業常任委員会

諸塚村議会見学の感想

6月15日開催の第2回諸塚村議会定例会に、小学校6年生10名が議会傍聴し、終了後に議会議員に対して様々な質問を行いました。その時の感想を寄せていただきました。今後も、議会活動や村政に興味を持ち続けてほしいと思います。



かわさき せりか
川崎 芹華 (諸塚小)

議会にはきまりがあり、いろいろなバランスを考えて話し合いをしていることが心に残った。



かい ほなみ
甲斐 穂奈実 (諸塚小)

3月、9月の議会は、予算に関わるために議案が多いことにびっくりした。



わかもと こうた
若本 康汰 (諸塚小)

なぜ議会では「～君」と呼ぶのかずっと気になっていたが、議会のきまりだということが分かってすっきりした。



たけうち りの
竹内 理乃 (諸塚小)

村民の声を聞いて、議会が進められていることが分かった。時間をかけて、様々な問題について話し合っていることが心に残った。



かい はな
甲斐 花和 (七ツ山小)

議会のきまりがあるとは思っていたが、10ぐらいだと考えていた。辞書並みの厚さのきまりがあることにびっくりした。村民のための気配りも心に残った。



はらだ ふうこ
原田 楓子 (七ツ山小)

とんでもない量の議案を話し合っていることにびっくりした。話し合いの進め方に、時間のきまりなどがあることにも驚いた。



ほりよし ときや
堀吉 斗希也 (諸塚小)

議会のルールが多さにびっくりした。村民の幸せな暮らしをめざして、議員さん達が話し合いをしていることが心に残った。



かい しゅうへい
甲斐 柁平 (諸塚小)

村のためを考えて、話し合いが行われていることが分かった。議会のルールを、自分たちの代表委員会の話し合いなどで生かしていきたいと思った。



にしだ しんのすけ
西田 慎之介 (荒谷小)

村民の願いを実行するために、議会があることが分かった。村のことを動かしている大きさが凄いと感じた。



ふじもと こう
藤本 昊 (七ツ山小)

議会の進め方にたくさんのきまりがあることを初めて知った。今まで以上に、政治に興味をもった。

議 会 活 動 報 告

月	日	内 容	場 所
4	4	九州中央道事業化決定セレモニー	五ヶ瀬町
	28	延岡地区村人会	延岡市
5	1	日向市開庁式	日向市
	11	東臼杵郡議会議長会定期総会	日向市
	14	連合所管事務調査(～16日)	馬路村
	17	県町村議会議長会役員会	宮崎市
	21	九州中央自動車道沿線議会期成会理事会	延岡市
	23	九州中央自動車道沿線議会期成会熊本・宮崎両県合同理事会	御船町
	24	入郷地域開発期成同盟会役員会	役 場
	26	宮崎地区村人会	宮崎市
	28	全国会主催正・副議長研修会(～29日) 県選出国會議員との懇談会	東 京 都
	6	15	第2回定例議会
16		村消防操法大会	野 球 場
19		県町村議会議長会正副会長会	宮崎市
21		県椎茸品評会(～22日)	宮崎市
22		七ツ山村政座談会	七 ツ 山
24		九州玉入れ選手権大会	村 体 育 館
26		塚原村政座談会	塚 原
28		福祉運動会	村 体 育 館
7	2	入郷地域開発期成同盟会総会 五月会研修会	椎 葉 村 役 場

月	日	内 容	場 所
3	3	日向・東臼杵広域連合議会	日 向 市
	4	荒谷村政座談会	荒 谷
9		入郷地域開発期成同盟会要望活動	延岡・西都・日向市方面
	9	県町村議会議長会役員会 国道503号整備促進要望	宮 崎 市
10	黒葛原村政座談会	黒 葛 原	
11	九州中央道沿線議会協議会総会・研修会	高千穂町	
13	松の平村政座談会	松 の 平	
17	八重の平村政座談会	八 重 の 平	
7	18	森林・林業活性化議員連盟総会・研修会 立岩村政座談会	宮 崎 市 立 岩
	19	産業建設常任委員会政務調査	村 内
	20	川内村政座談会	川 内
	23	郡議長会定例議長会(～24日)	大 分 県
	24	議会運営委員会正副委員長研修	宮 崎 市
	25	川の口村政座談会	川 の 口
	26	子ども議会 東臼杵郡町村議会議員研修会	議 場 日 向 市
	27	家代村政座談会 みすず会	家 代 宮 崎 市
	28	日向地区消防操法大会 国道327号外4路線整備促進期成同盟会総会	日 向 市
	31	飯干村政座談会	飯 干

随 想

「郡民体育大会の思い出」

梅田 義輝

昭和38年ころ、諸塚村民グラウンドにおいて、郡民体育大会が開かれた思い出がある。当時、東臼杵郡の人口は、12万人から13万人はいたと思う。そんな中、郷土選手が優勝するかもしれないと聞き見に行った。午前中の5000m(ロードレース)大観衆が見守る中、帰ってきたのは諸塚の選手、午後のレース10000mまたしても諸塚の選手が1位で帰ってきたのである。あの出来事は今も私の脳裏から離れない。長距離だけではない。短距離選手にもフィールド競技もトップレベルの選手が大勢いた。その後、青年団バレーボール大会において、男女とも全国大会に出場、郡青年大会においては9連勝するなど数万人もいる町村を相手に圧倒していた。

むらづくりにおいても、公民館活動を中心とした四大産業の成果はすばらしいものであった。大先輩である本村のリーダーたちは、天下国家を語っても似合いの人たちばかりで今も頭が下がる思いである。

少しだけ年を取り振り返って見ると正にドラマである。

来年は、30年続いた平成の元号が変わることが予定されている。時を同じくして村政施行130年となる節目の年を迎えるようである。人口減少が続いているが、村民一人ひとりが協力し合って新たな気持ちでむらづくりを考えたいものである。

編 集 後 記

7月7日未明、西日本を中心に活発な梅雨前線による豪雨が発生。平成最悪と言われる甚大な被害をもたらしました。犠牲となられた皆様に心からのご冥福とお見舞いを申し上げます。

暗いニュースが多い中、タイ北部の洞窟から13名の尊い生命の救出という明るいニュースもありました。被災地の一日も早い復興を祈りながら、今年の後半が明るい話題で満たされるようお願いいたします。

(編集委員) 田原尚美 堀 英博 岩本國和 山本利夫